

茨城大学 2014年度協同組合論第7講
「茨城県の農業再生に向けてのワークショップ」報告書

H26.11.18

今回のテーマは「茨城県の農業再生に向けてのワークショップ」であり、井上教授の指示のもと、以下の3つのテーマについて学生たちがグループ討議を行うという内容であった。学生の間でも活発な議論が行われ、以下のような意見が挙げられた。

《テーマ》

- ①皆さんが茨城県産の農産物をもっと食べるようにするにはどのようにしたらいいと思いますか
 - ・1人暮らしでも食べられるような手軽な量で販売されていると大学生でも手に取りやすい
 - ・今までの講義を通じて実際に体験してみたことでわかることは大きかった、高いけどその分おいしいし、安全であることを理解してもらう教育が必要
 - ・県内産農畜産物をもっとPRする(100%茨城産メニューの発案・販売。安全性、物産展などでの茨城産メニューの提供など)
 - ・業者と連携し、スーパーの茨城県産の仕入れ量を増やしてもらう

- ②茨城県の農業をさらに飛躍させるポイントは何だと思いますか
 - ・県内消費量を増やす
 - ・海外市場への進出
 - ・農業の大規模化の推進
 - ・ブランド力の向上(県内外における知名度向上、販路を絞る、希少性の高いものを生産する)
 - ・若い世代への農業に関する理解の促進
 - ・農業担い手を増やす
 - ・耕作放棄地の解消→茨城モデルを作って成功すればPRにもなる
 - ・全国農産物品評会を開催し、茨城産の良さをPRする

- ③皆さんが日頃の食事で「安さ」と「安心・安全」のどちらを重視していますか。また前者の場合日頃どのようにすれば「安心・安全」を重視できるようになりますか
→ほとんどの学生が「安さ」を重視。理由としては生活面の問題が多く挙げられた。
対策として出された意見は
 - ・「安心・安全」とは何かを教えるなど食育講座の開催をする
 - ・規格外の野菜を安価で販売するなど安く手に入るようにしてほしい。
 - ・1人暮らし向けの数量を販売して手に取りやすくしてほしい。
 - ・安価な商品が何故安いのか、何故安心安全がいいのかを知る企画に参加する。
 - ・「安心・安全」をPRする漫画を作成する。

《所感》

今回の講義が初めての参加となったが、学生が農業や農産物に対して議論を活発に行っている姿に驚いた。本会でも食育事業や農産物の消費拡大など様々な課題があるなかで、消費者の1人でもある学生の意見を生で聞くことが出来て参考になった。今後の事業提案に活かしていきたい。

授業後、学生たちに話をきいたところ、学生の1人は「みんなで農業をテーマに話すことが出来て自分の考えをまとめたり、みんなの意見を共有できた」と話していた。

また今回が農協に関する講義のまとめであったことを受けて、学生からは「今回のカリキュラムを通じて、直売所や生産の現場に足を運ぶことによって食に対する意識が変わった」「今までは食べ物に関して興味が薄かったが、茨城産を気にするようになった」などの感想が挙げられた。